



ウルグアイ

- 小さくてもキラリと光る国 -

2019年3月
駐ウルグアイ日本国大使
眞銅 竜日郎



目次

1. ウルグアイ概観 ~小さくてもキラリと光る国~

2. 最近の進展

(1) 日本国総理大臣が史上初の公式訪問

(2) 日本人移住110周年

(3) 日本企業支援

①日本酒南米展開、震災復興支援

②パロ・セラピーロボットの普及協力

(4) スポーツ交流・震災復興支援: ラグビーワールドカップ

(5) ジエトロ理事長がウルグアイ初訪問

(6) 農牧水産大臣、外務次官が訪日

日・ウルグアイ政策協議、ビジネスフォーラム、FOODEX出展



目次

3. ウルグアイの特徴
4. 政治情勢
5. 経済情勢
6. 産業別概況
7. フリー・ゾーン政策
8. メルコスール概要
9. 日本・ウルグアイ経済関係
10. 今後の日本ウルグアイ二国間関係

ウルグアイ概観

～小さくてもキラリと光る国～

1. 堅実さと安定 ~国際社会の優良なパートナー

- 政治・社会的な成熟:一人あたりGDP、民主主義指数、非腐敗指数、法治指数等で中南米第1位。
- 持続的な成長と開かれた経済:2003年以降15年連続プラス成長。経済成長率2.7% (2017年)
- 主要輸出産業は牧畜・農林業。人口340万人に対し、牛は1,200万頭、羊は800万頭。面積は日本の約半分。牛肉の一人当たり消費量は年間約60キログラムで世界第1位。日本の10倍の水準。

2. 政治・経済概観 ~2019年は大統領選挙(与野党拮抗)、開放経済の堅持

- 本年10月大統領・議会選挙、11月決選投票実施。与野党は拮抗しており、15年間政権を担当している与党FA(左派)続投の可能性は半々。どちらが勝利しても、議会で単独過半数に達することはできず、政党間協力・連立が必須。次期政権運営は難航する見込み。
- 開放経済は堅持。メルコスール域外との経済関係強化を目指す。
- 中国は最大の貿易相手国。2018年8月、一带一路の協力に関するMOUに署名。同年10月、ウルグアイ主導によるメルコスール・中国対話が実施。中国とのFTA交渉(単独又はメルコスール)を希望。

3. 日・ウルグアイ主要案件 ~史上初の総理大臣公式訪問が実現

- 2018年12月、安倍首相による日本国総理大臣の初の公式訪問が実現。安倍総理大臣とバスケス大統領による首脳合意のフォローアップが重要。
 - ①ウルグアイ産牛肉輸入解禁(2月)
 - ②日ウルグアイ政策協議(3月於:東京)
 - ③ジェトロ・ビジネスミッションのウルグアイ派遣(4月)
- 二国間通商・経済関係強化の基盤整備(投資協定(発効済)、税関相互支援協定(実質合意)、租税条約(4月交渉開始))。
- ODA開発途上地域指定、支援方針充実の必要性。
- 2021年日ウルグアイ外交関係樹立100周年。次の100年に向けたウルグアイとの二国間関係及び日系人社会との協力強化。2018年は移住110周年。



ウルグアイ東方共和国

最近の進展

安倍首相が日本国総理大臣として
史上初のウルグアイ公式訪問

2018年12月2日



写真：官邸HPより

カラスコ国際空港に降り立つ安倍首相夫妻、野上官房副長官ニンノボア外務大臣、ブズー儀典長、フェレール駐日ウルグアイ大使が出迎え。眞鍋駐ウルグアイ日本国大使が先導、案内。

最近の進展

安倍総理大臣と在ウルグアイ日系人・在留邦人の懇談会

2018年12月2日



写真：官邸HPより

日本人・ウルグアイ移住110周年の記念の年に総理大臣の初の公式訪問が実現。
安倍総理大臣は出席者全員と握手を交わして記念撮影を行った。

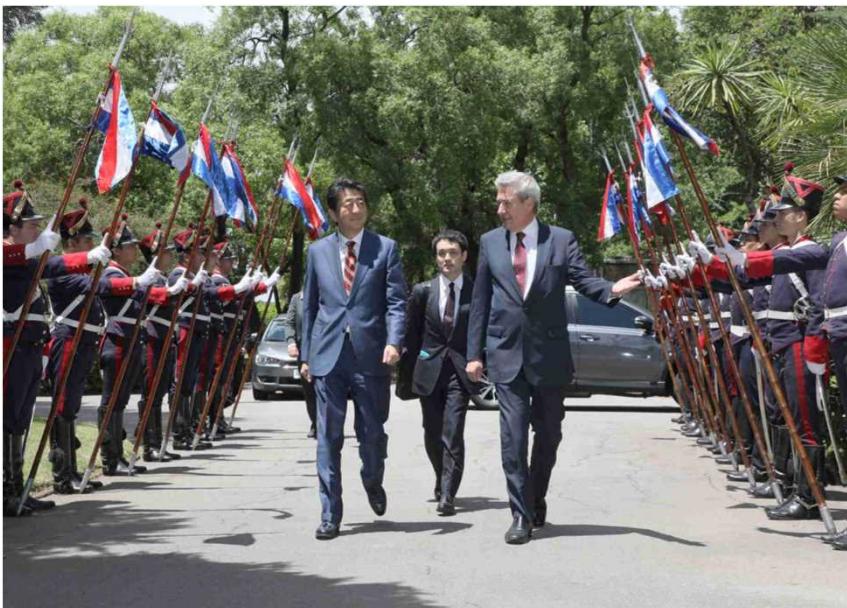
最近の進展

日本・ウルグアイ首脳会談

2018年12月2日

牛肉輸出の相互解禁、ジェトロ・ビジネス・ミッション派遣等を首脳会談・共同記者会見で発表。

特に、長年の懸案であったウルグアイ産牛肉の日本市場への輸出解禁はウルグアイにとり最大の朗報。



安倍総理大臣とバスケス大統領が首脳会談

大統領公邸

写真：官邸HPより

最近の進展

ウルグアイ・日本人移住110周年記念式典
ホセ・ムヒカ前大統領とルシア・トポランスキー副大統領(ムヒカ大統領夫人)が参加



2018年10月31日

ムヒカ前大統領
祝辞

ホセ・ムヒカ前大統領、ルシア・トポランスキー副大統領



- ・ムヒカ前大統領
- ・在ウルグアイ最高齢・95歳の日本人
ムヒカ前大統領と抱き合い
長寿を祝福され感涙に咽ぶ

鏡開き(ムヒカ前大統領、ルシア副大統領、日本人代表、来賓)

最近の進展

日本企業支援:日本酒・南部美人 震災復興支援 南米展開セミナー

2018年8月23日

岩手県の酒蔵・南部美人の久慈社長が初めてウルグアイ来訪。震災復興と日本酒の南米市場展開をテーマとするセミナーを2018年8月に開催。久慈社長の尽力により岩手県から日本酒のウルグアイ向け初出荷が12月に実現。



- ・南部美人・久慈社長
- ・ジェトロ・ブエノスアイレス 紀伊所長
- ・眞銅大使 大使公邸



最近の進展

パロ・セラピー・ロボットの開発者の柴田博士を
招き、ウルグアイで初の普及活動開始



・バツソ厚生大臣
・柴田博士
・眞銅大使



2018年9月19日

介護施設
パロと初めて触れ合う
入居者



マシエル病院



アスツール財団
イグレシアス会長
元米州開発銀行総裁
元外務大臣
元中央銀行総裁

最近の進展

岩手県のラグビー・ワールドカップ準備ミッションを支援 2018年8月

震災復興のシンボル：ラグビー・ワールドカップ

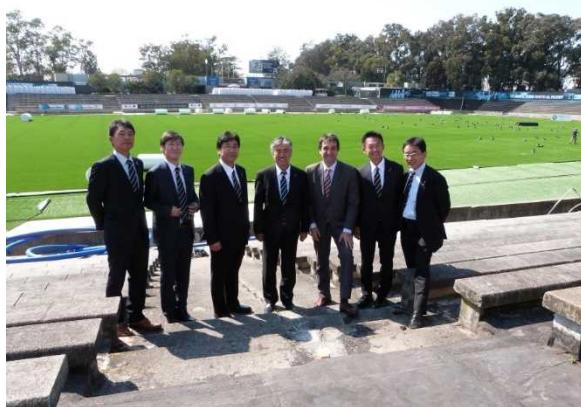
ウルグアイ・ナショナルチーム・「ロス・テロス」が釜石復興スタジアムでフィジーと対戦
(2019年9月25日試合開催)



ケチチアン観光大臣、紺野・岩手県企画理事



カセレス・スポーツ庁長官



岩手県庁ミッション団員 チャルーア・スタジアム



フェラーリ・ウルグアイ・ラグビー協会会長

ウルグアイ試合日程

9月25日 釜石
対フィジー

9月29日 熊谷
対ジョージア

10月5日 大分
対オーストラリア

10月13日 熊本
対ウェールズ

最近の進展

日本貿易振興機構(ジェトロ) 石毛理事長がウルグアイ初訪問

ウルグアイは2025年国際博覧会(万博)選挙で大阪を支持。

2018年11月19日～20日



左:トボランスキーフ副大統領

右:ベルガミーノ暫定
外務大臣



ベネッチ農牧水産大臣



石毛理事長、眞鍋大使、
紀伊ブエノスアイレス所長

最近の進展

農牧水産大臣、外務次官が訪日
日・ウルグアイ政策協議
ジェトロでのビジネスフォーラム
FOODEX2019

2019年3月



2019年3月4日

左上:ビジネスフォーラムで講演する
ベネッチ農牧水産大臣
左下:貿易・ビジネス・投資交流促進に
向けた両国間協力の覚書が、ウルグア
イ××とジェトロにより締結
右上:FOODEX2019に参加したウルグアイ
関係者

写真:ウルグアイ×× | ホームページより



ウルグアイの特徴

- 小さくてもキラリと光る国 -

堅実さと安定

- ・国際社会の優良なパートナー
- ・政治・社会的に安定した成熟国家
- ・中南米第1位の1人当たり所得
- ・15年間連續のプラス成長
- ・メルコスール原加盟国





ウルグアイの特徴

基礎データ

- ・面積: 176,220平方キロ(日本の約半分)
- ・人口: 約344万人(静岡県、横浜市に相当)
- ・言語: スペイン語
- ・首都: モンテビデオ(人口約150万人)
- ・民族: 9割が欧洲系(スペイン・イタリア系中心)
- ・気候: 温暖湿潤, 年間降水量 1,300mm
- ・主要産業: 農業・牧畜業・林業



ウルグアイ独立の英雄
アルティガス将軍



ウルグアイの特徴

高い国際評価

指標	中南米諸国中の順位	世界での順位 (括弧内は日本の順位)
民主主義指数 (Economist Intelligence Unit, 2018)	1位	15位 (22位)
腐敗認識指数 (Transparency International, 2018)	1位	23位 (18位)
法治指数 (World Justice Project, 2017-2018)	1位	22位 (14位)
報道の自由指数 (Reporters without Borders, 2018)	2位 (1位コスタリカ)	20位 (67位)
経済自由度指数 (Heritage Foundation, 2019)	2位 (1位チリ)	40位 (30位)



政治情勢



穩健な中道左派政権

- 3期連続(15年間)の長期政権(2020年2月まで)
- バスケス大統領は2期目
- 過激派が台頭することなく政情は安定
- 教育及び医療を中心とする社会保障政策及びインフラ整備に取り組む
- 対外経済関係強化を目指し、特にアジア諸国との関係強化を模索
- 課題は財政赤字削減(対GDP比4%),インフレ抑制(8.3%:2017年),雇用拡大(失業率7.9%:2017年),投資誘致

バスケス大統領



政治情勢

次期国政・県政選挙

2019年6月30日	党内選挙(各党1名の大統領候補を選出)
2019年10月27日	<u>大統領選挙及び議会選挙</u>
2019年11月24日	<u>大統領選挙決選投票</u>
2020年3月1日	大統領就任式(大統領任期5年)
2020年5月10日	県知事選挙及び県議会選挙

政治情勢

次期大統領選挙主要政党・候補

与党拡大戦線(FA)

人民参加運動(MPP)



コッセ前工業エネルギー鉱業相

社会党

マルティネス・モンテビデオ県知事



共産党

アンドラテ建設労組総書記長



ベルガラ前中銀総裁



人民同盟

アベジャ下院議員



独立党

ミエレス上院議員



左派

中道

右派

国民党

TODOS

ラカジエ・ポウ上院議員



より良い国

アンティーア・マルドナド県知事



JUNTOS

ララニャガ上院議員



コロラド党

BALLISTAS

サンギネット元大統領



市民

タルビCERES研究部門長



人々の党

ノビック氏





政治情勢

次期大統領選挙分析

- ・ 与党・拡大戦線(FA) VS 国民党
- ・ 決選投票の実施が確実視
- ・ 右派系野党間の協力の是非が鍵
- ・ 政権交代しても基本的な政策方針は維持されると予想
- ・ 単独政党が議席過半数を得るのは困難



経済情勢

経済概況

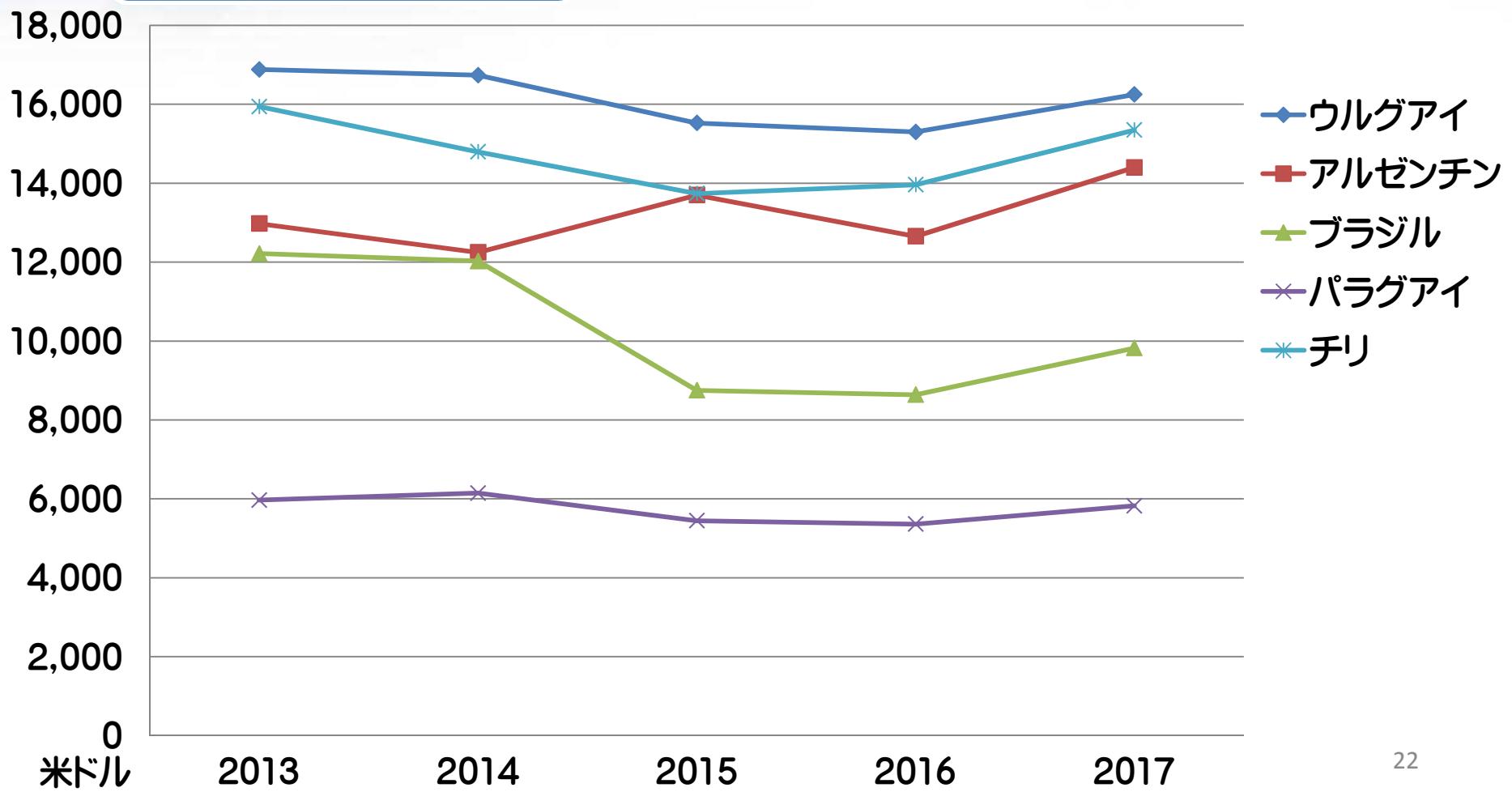
- GDP: 約561億ドル(2017年) 出典:世界銀行(2019)
- 1人当たりGDP: 16, 246米ドル(2017年) 出典:世界銀行(2019)
- 主要産業: 農業、牧畜業、林業、製造業(特に食肉加工)
- 経済成長率: 2.7% (2017年) 出典:世界銀行(2019)
- 失業率: 7.9% (2017年) 出典:経済財務省(2019)
- 主要輸出品: セルロース、牛肉、乳製品、大豆、炭酸飲料原料
- 主要輸入品: 乗用車、洋服・靴、プラスチック、携帯電話、化学物資
- 輸出先国: ①中国、②ブラジル、③米国(2018年)
- 輸入先国: ①中国、②ブラジル、③アルゼンチン(2018年)

出典:ウルグアイXXI(2019)

経済情勢

一人当たりGDP

出典:世界銀行(2019)





経済情勢

Standard & Poor's
外貨建て長期債
2018年12月現在

投資

- ・ 良好な投資環境(政治・経済・社会の安定)
- ・ 投資適格国(2012年以降連續)
- ・ 世界レベルでの透明性の高さ、汚職率の低さにより経済情況は比較的安定
- ・ ドル建て預金・決済の自由、司法書士・会計士人材の豊富さ
- ・ UPM社(林業、フィンランド)、BASF社(化学、ドイツ)等が進出

A+	チリ
BBB+	ペルー
BBB	ウルグアイ★
BBB-	コロンビア
BB	パラグアイ★
BB-	ボリビア ブラジル★
B	アルゼンチン★
B-	エクアドル
SD	ベネズエラ

投資
適格↑

★:メルコスール



産業別概況

農業・水産業

- GDPに占める農林水産業の割合:8.3% (2017年)
- 輸出額に占める農林水産業の割合:76.4% (2017年)
- 大豆(世界第11位の生産国) (2017年)
- コメ(世界第8位の輸出国) (2017年):日本企業2社も参画
- 南半球で初のキャビア生産国、対日輸出に意欲

ウルグアイにおけるGDPに占める農業・農業関連産業の割合とその推移 (単位:百万ドル)

	2013	2014	2015	2016	2017
GDP	57,531	57,236	53,269	52,303	59,235
農業セクターGDP	5,989 (10.4%)	5,756 (10.1%)	4,954 (9.3%)	4,654 (8.9%)	4,909 (8.3%)
農業GDP	4,338 (7.5%)	3,812 (6.7%)	3,239 (6.1%)	3,130 (6.0%)	3,036 (5.1%)
農業関連産業GDP(食肉産業、乳業、なめし革製造業、家具を除く木材産業等)	1,652 (2.9%)	1,944 (3.4%)	1,715 (3.2%)	1,524 (2.9%)	1,873 (3.2%)

24



産業別概況

牧畜業(畜産業・酪農・乳業)

- 1人当たり牛肉消費量世界一(年間約60kg)
- 生鮮牛肉を世界60カ国以上に輸出(102カ国で輸入が解禁されている)
- 対日関係では2018年11月30日、日本産牛肉・ウルグアイ産牛肉の相互輸出解禁の条件に合意
- 2019年2月、輸出解禁後初めて日本向けにウルグアイ産牛肉が出荷され、3月に日本のFOODEX2019等のイベントでプロモーション活動が行われた。
- 欧米では高級ホテル・レストランが顧客
- 輸出志向型:生乳の約7割を輸出、世界70カ国以上向け
- 生乳生産コストはアルゼンチンと並び世界でも低水準
- 粉乳は品質上の格差が生じにくく、生産コストが競争力に

産業別概況

林業

- GDPに占める林業・木材産業(パルプ、製材等)の割合:3.6%
- 1970年代後半からの日本の技術協力が基礎を築く
- 早生樹種(ユーカリ類、マツ類)の林業・林産業のモデル国
- 森林面積は245万ha, 国土の15%
- 地形が平坦で植林や伐出作業, 機械化等が容易
- 放牧のため植林地を開放し, 下刈り等の保育コスト削減
- 温暖な気候で植林木の年間平均成長量が大きい
- 2017年11月7日、ウルグアイ政府はUPM社の第2セルロース工場建設に関する投資契約に合意

UPMフライベントス工場



産業別概況

IT産業

- ・ 数少ないウルグアイ企業の海外展開はIT産業が中心
- ・ GENEXUS社：日本、米国、メキシコ等にも進出するソフト制作会社で、同社のシステム支援ソフトは多くの日本企業で利用
- ・ インターネットのスピード・アクセスは中南米トップレベル
- ・ ITアクセスの普及：公立小学生へのノート型パソコンの無償配布「セイバル計画」、年金受給者への同配布「イビラピタ計画」等

セイバル計画で配布されたPCを使って学ぶウルグアイの小学生





産業別概況

金融・サービス産業

- ・ドル決済、海外送金手続き等が容易
- ・フリーゾーン内で金融・サービス業を行う企業多数

バイオテクノロジー産業

- ・成長産業の一つで、多くの製薬会社、研究所がある
- ・化学・農業工学と医学のシナジーの可能性

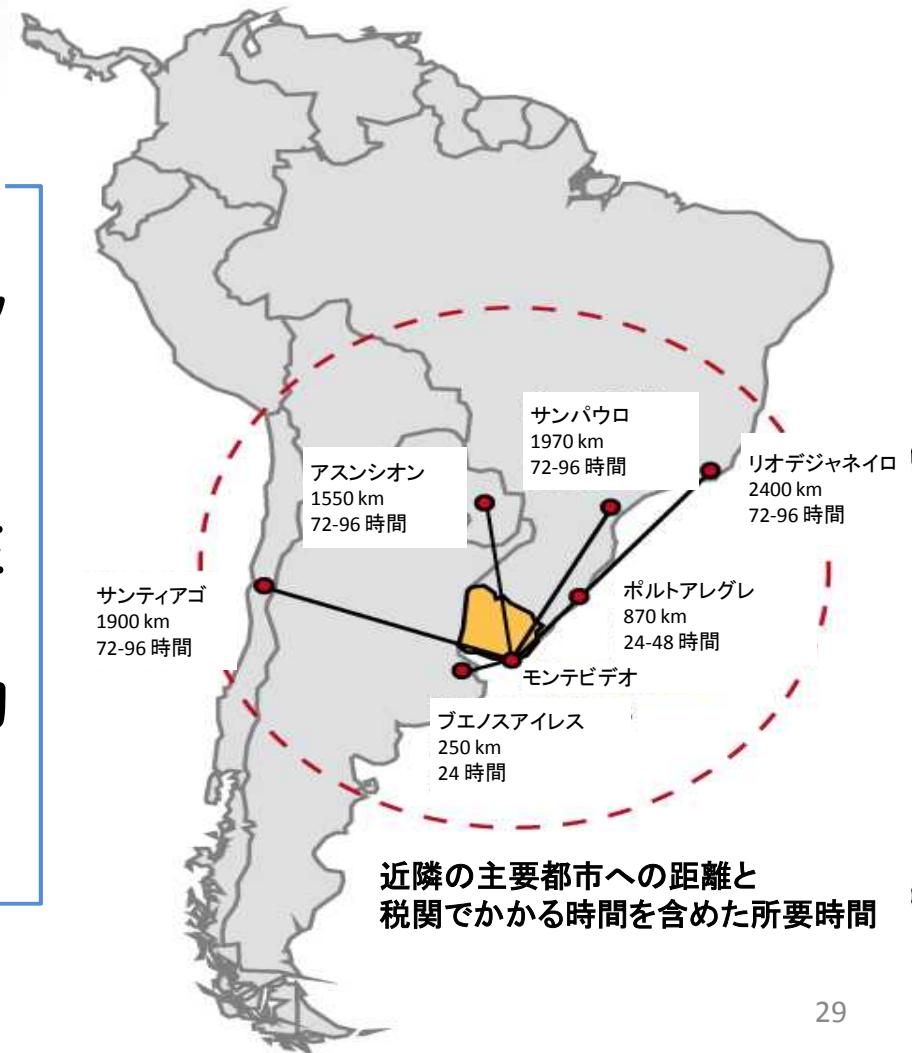
製造業

- ・自動車関連産業などはあるも、主要産業とは言えず
- ・労働組合の力が強く、ストライキなども発生することから、労働集約型の製造業にはデメリットあり

産業別概況

ロジスティクス(物流)産業

- ・ 南米市場のロジスティクスセンター
- ・ 全国11カ所のフリーゾーン
- ・ ブラジル、アルゼンチン等の主要マーケットにアクセス
- ・ メキシコ及びチリとはFTA発効済み





フリーゾーン政策

税制上の優遇措置

- ・ 法人税、相続税、付加価値税、奢侈税等の既存の税及び今後導入される税が免除
- ・ フリーゾーンに入る貨物には関税はかかりず、保税輸入及び保税加工ができる等の免税措置



フリーゾーン政策

南米のロジ拠点として

- ・ フリーゾーン内の仕分け・梱包作業等を自由に行えるため、商品の送付先を各国の状況、需要及び在庫状況を確認しながら管理することが可能
- ・ モンテビデオ郊外のソナアメリカにリコー、島津製作所等の日系企業が進出

ソナアメリカ





フリーゾーン政策

投資比較	メリット	デメリット	適したビジネス
フリーゾーン	<ul style="list-style-type: none">・税優遇・社会保障費不要・人材確保が容易	<ul style="list-style-type: none">・メルコスール域外扱い (関税あり)	<ul style="list-style-type: none">・南米全体を供給先としたロジ拠点
フリーゾーン 以外	<ul style="list-style-type: none">・対メルコスール輸出への原則関税無し・外国投資促進法で税制優遇あり	<ul style="list-style-type: none">・業種によつては労組が強く、労働争議の可能性	<ul style="list-style-type: none">・メルコスール加盟国を供給先としたビジネス



メルコスール概要

加盟国

アルゼンチン、ブラジル、パラグアイ、ウルグアイ
ボリビア（正式加盟批准待ち）、ベネズエラ（加盟国資格停止）

関税同盟

- 市場規模：GDP総額3.4兆米ドル、総人口3億3千万人
- 域内関税：原則ゼロ（砂糖、自動車・部品、例外品目除く）
- 約85%の品目に对外共通関税が適用



メルコスール概要

対外経済関係

- ・ 活発化する対外関係強化の取り組み
- ・ EU、EFTA、カナダ、韓国、シンガポールとFTA交渉中
- ・ 日・メルコスール対話の実施
- ・ 中国・メルコスール対話の実施
- ・ 太平洋同盟との関係緊密化

モンテビデオにある
メルコスール事務局





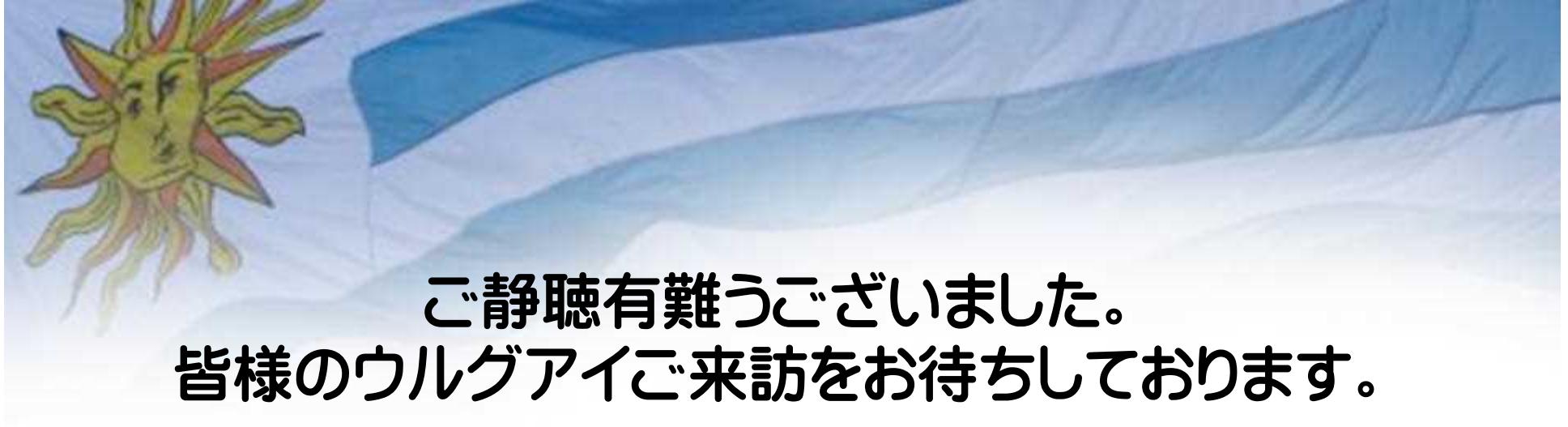
日本ウルグアイ経済関係

- 貿易(2018年) 出典:ウルグアイXXI(2019年)
 - 対日輸出:5,983万ドル(羊毛等、牛肉エキス等)
 - 対日輸入:1,045万ドル(乗用車、合成ゴム、印刷機器等)
- 進出日系企業:18社(2019年2月現在) 出典:大使館調べ(2019年)
- 2018年12月、安倍首相が日本国総理大臣として史上初めてウルグアイを公式訪問し、ウルグアイ産及び日本産牛肉の相互輸出解禁を発表。2019年2月、解禁後初めて日本向けにウルグアイ産牛肉が出荷され、3月に日本でFOODEX2019等のイベントでプロモーション活動が行われた。
- 投資先としてのメリット:11のフリーゾーン、税制上の優遇措置、自由な金融、メルコスールの中心に位置する地理的メリットを生かしたロジセンターとしての役割、安定した政治、治安の良さ。



今後の日本ウルグアイ二国間関係

- 2018年12月の安倍総理大臣とバスケス大統領による首脳合意のフォローアップが重要。
①ウルグアイ産牛肉輸入解禁(2月)
②日ウルグアイ政策協議(3月於:東京)
③ジェトロ・ビジネスミッションのウルグアイ派遣(4月)
- 二国間通商・経済関係強化の基盤整備(投資協定(発効済), 税関相互支援協定(実質合意), 租税条約(4月交渉開始))。
- ODA開発途上地域指定, 支援方針充実の必要性。
- 2021年日ウルグアイ外交関係樹立100周年。次の100年に向けたウルグアイとの二国間関係及び日系人社会との協力強化。



ご静聴有難うございました。
皆様のウルグアイご来訪をお待ちしております。

在ウルグアイ日本国大使館
特命全権大使
眞銅 竜日郎

連絡先
在ウルグアイ日本国大使館 経済班
economia@mv.mofa.go.jp